

岡山県感染症週報 2017年 第26週 (6月26日～7月2日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令しました。(7月5日)

◆2017年 第26週(6/26～7/2)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第24週	2類感染症	結核	3名(20代女1名、30代女1名、50代女1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(50代男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	2名(50代男)
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	1名(幼児男)
		水痘(入院例に限る。)	1名(小学生男)
第25週	2類感染症	結核	1名(90代女)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名(80代男)
		後天性免疫不全症候群	1名(50代男)
		梅毒	1名(30代男)
第26週	2類感染症	結核	3名(20代男1名、50代女1名、80代男1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:小学生男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(70代男)
	5類感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1名(30代女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- 手足口病は、県全体で247名(定点あたり2.33→4.57人)の報告があり、前週より増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で88名(定点あたり1.61→1.63人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 感染性胃腸炎は、県全体で414名(定点あたり8.30→7.67人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第27週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O157:20代男)の発生がありました。(7月5日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第26週に1名の報告があり、2017年第26週まで(～7/2)の累計報告数は9名となりました。さらに第27週(7/5)にも1名の報告があり、患者の発生が続いています。今後もこの傾向が続く可能性があることから、岡山県は7月5日に「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で247名(定点あたり2.33→4.57人)の報告があり、2週連続で増加しました。地域別では、美作地域(7.17人)、備中地域(6.86人)、真庭地域(6.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で88名(定点あたり1.61→1.63人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者の増加はみられませんが、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市(2.29人)、倉敷市(2.27人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期の小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いをを行うなど、感染予防に努めてください。
4. **感染性胃腸炎**は、県全体で414名(定点あたり8.30→7.67人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域(11.75人)、岡山市(10.57人)、備前地域(8.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	大幅な減少	★	RSウイルス感染症	増加	★
咽頭結膜熱	増加	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	増加	★★
感染性胃腸炎	増加	★★★★★	水痘	減少	★
手足口病	増加	★★	伝染性紅斑	大幅な減少	★
突発性発疹	増加	★★	百日咳	増加	
ヘルパンギーナ	増加	★	流行性耳下腺炎	増加	★
急性出血性結膜炎	増加		流行性角結膜炎	増加	★
細菌性髄膜炎	増加		無菌性髄膜炎	増加	
マイコプラズマ肺炎	大幅な減少	★	クラミジア肺炎	増加	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	増加	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

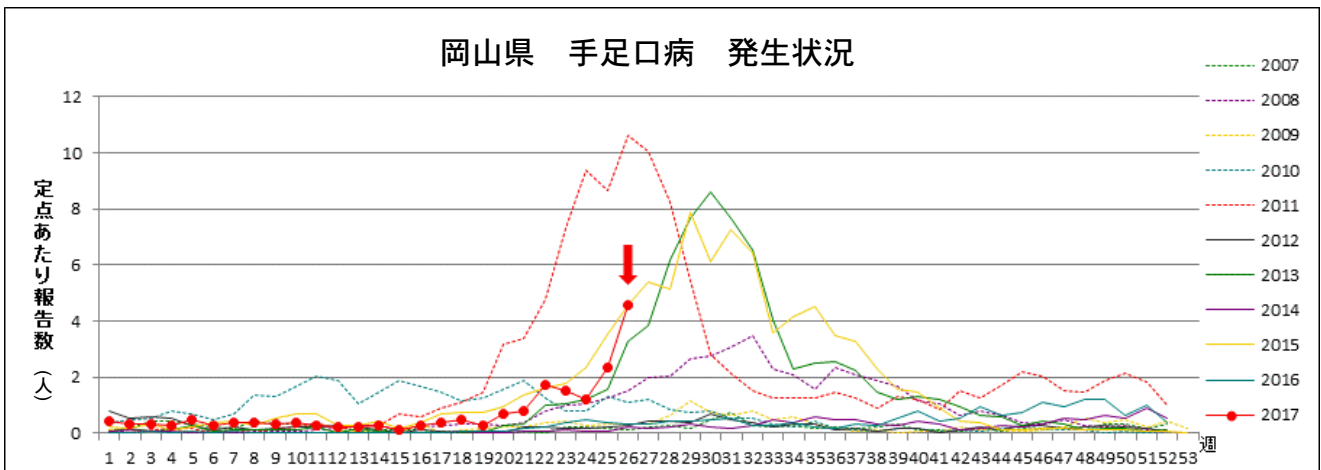
【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

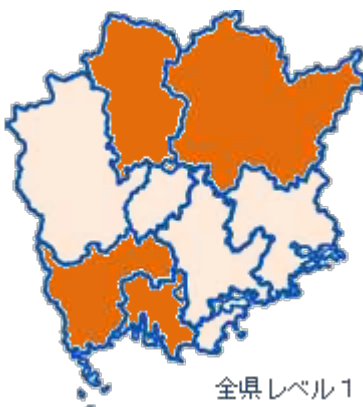
今週の注目感染症

手足口病

【岡山県の発生状況】



手足口病感染症マップ 2017年 26週

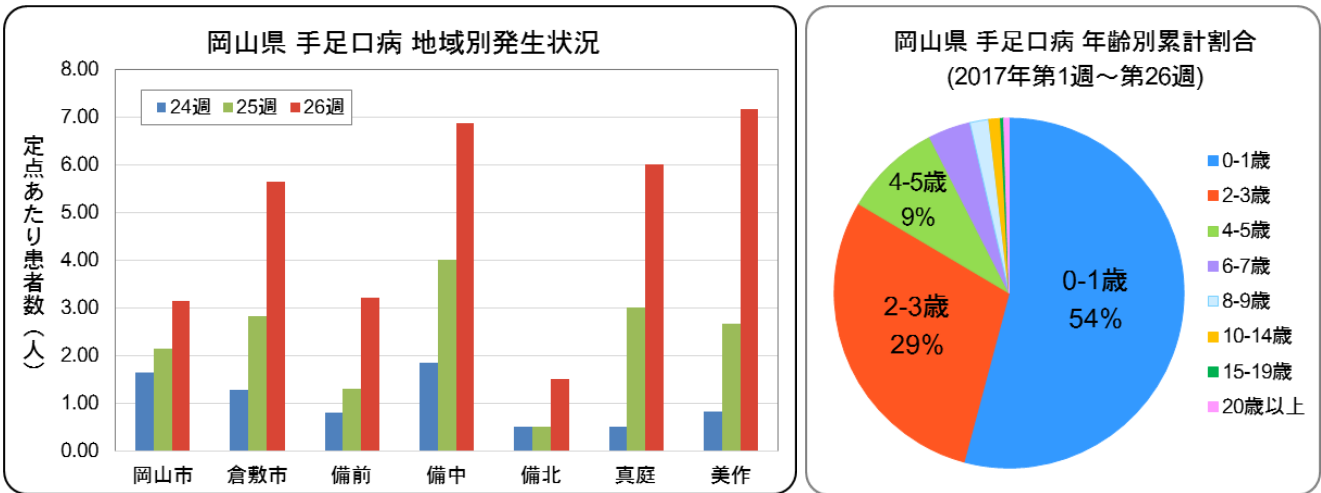


<手足口病発生レベル基準>

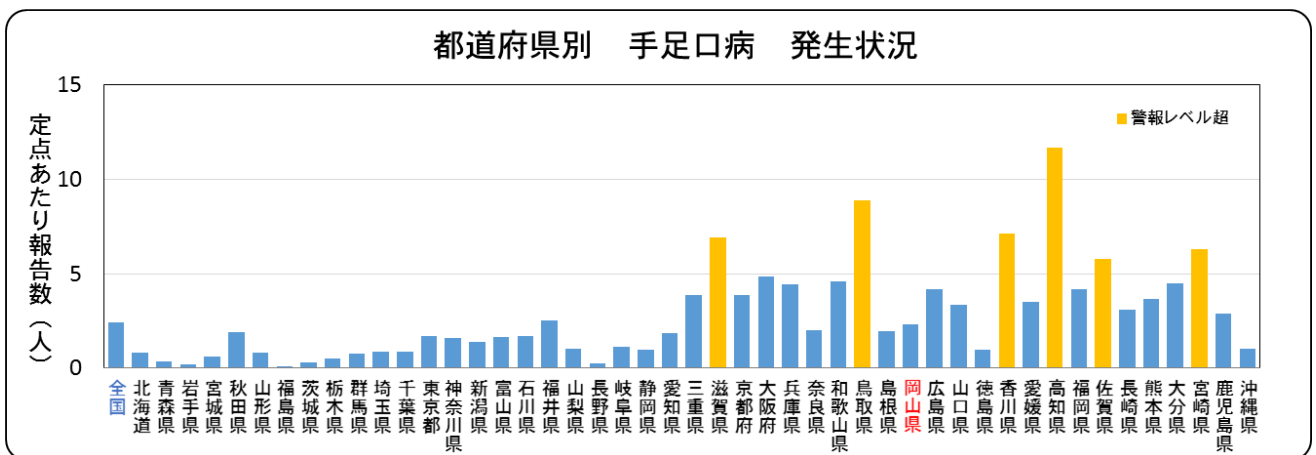
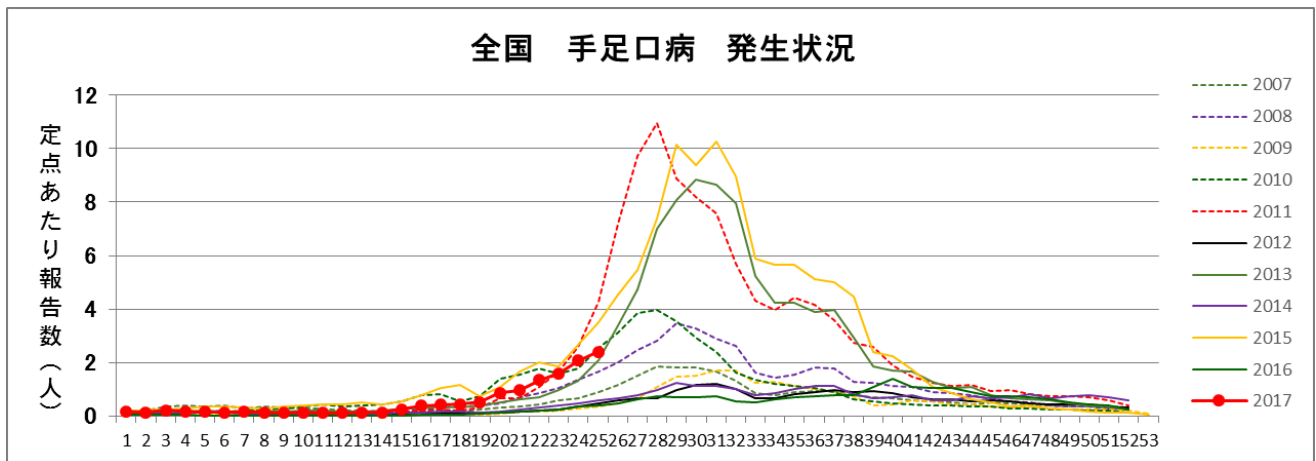
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
5	2	
レベル1	報告なし	
基準値	基準値	
0 < 5 未満	0	

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

手足口病は、県全体で247名（定点あたり2.33→4.57人）の報告があり、2週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、美作地域（7.17人）、備中地域（6.86人）、真庭地域（6.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で前週より大きく増加していますが、特に美作地域、備中地域、真庭地域及び倉敷市（5.64人）では、定点あたり報告数が5人を超えたため、発生レベル3となりました。2017年第26週までの年齢別累計割合では、0-1歳 54%、2-3歳 29%、4-5歳 9%の順で高くなっており、3歳以下の乳幼児が全体の83%を占めています。



【全国の発生状況】



全国の第25週（6/19～6/25）の発生状況は、定点あたり報告数が2.41人であり、前週（2.07人）より増加しました。都道府県別では、高知県（11.7人）、鳥取県（8.89人）、香川県（7.14人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行しています。近隣県でも多くの患者が報告されているため、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2017年第25週 \(国立感染症研究所\)](#)

[IDWR 2017年第23号<注目すべき感染症> 手足口病\(国立感染症研究所\)](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで、飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。

【症 状】

3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【治 療】

特別な治療法はありません。経過観察を含め、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、おう吐する、頭を痛がる、発熱が2日以上続く、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

【予 防】

有効なワクチンはありません。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。

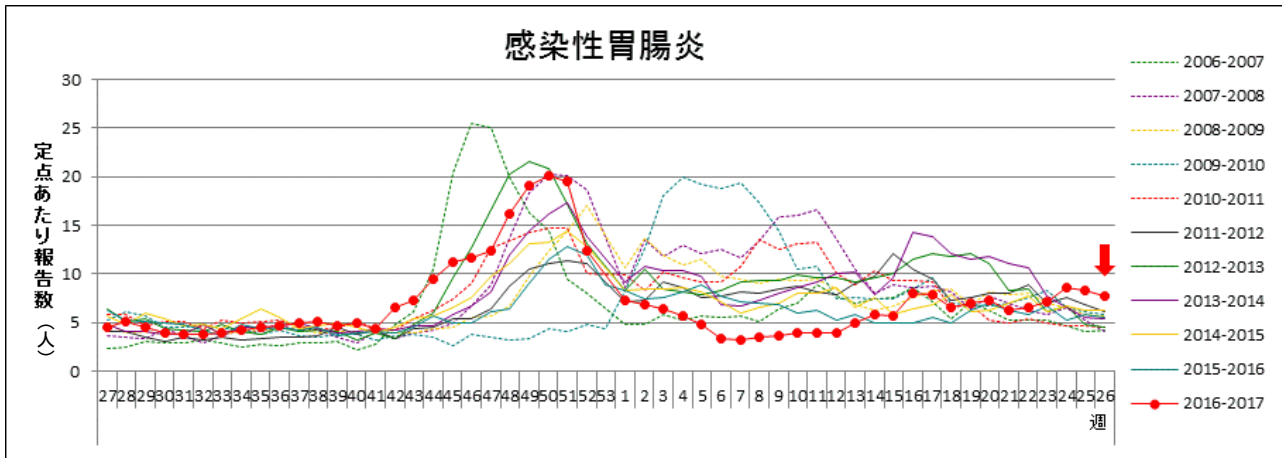
[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

感染性胃腸炎週報 2017年 第26週 (6月26日～7月2日)

【お知らせ】 今シーズンにおける感染性胃腸炎情報は、今週(第26週)をもって終了いたします。

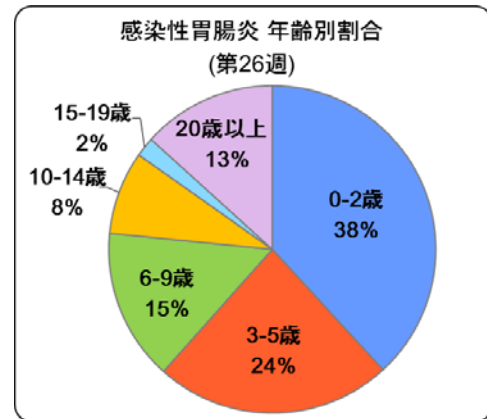
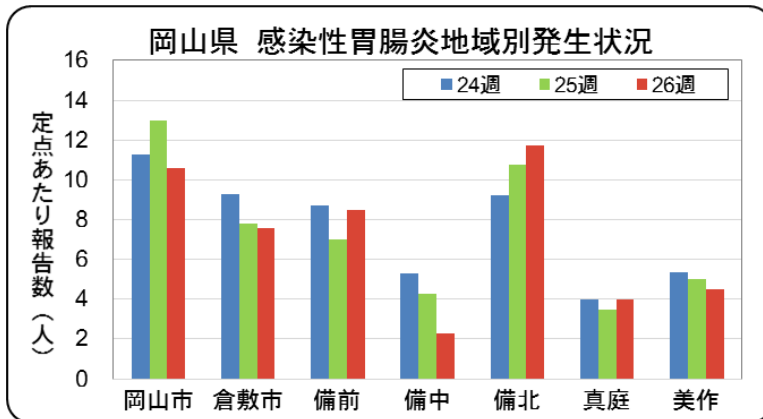
➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で414名(定点あたり7.67人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

◆地域別・年齢別発生状況



感染性胃腸炎は、県全体で414名(定点あたり8.30→7.67人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域(11.75人)、岡山市(10.57人)、備前地域(8.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。第26周年齢別割合では、0-2歳38%、3-5歳24%、6-9歳15%の順で高くなっています。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

- 「清潔」(菌をつけない)
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」(菌を増やさない)
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)
- 「加熱」(菌をやっつける)
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。(食肉の生食は避けましょう。)

[食中毒予防の3原則 \(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 26週(定点把握)

(2017/06/26～2017/07/02)

2017年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	-	-	4	0.25	3	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	3	0.06	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	18	0.33	4	0.29	3	0.27	4	0.40	5	0.71	2	0.50	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	1.63	32	2.29	25	2.27	14	1.40	4	0.57	4	1.00	1	0.50	8	1.33
感染性胃腸炎	414	7.67	148	10.57	83	7.55	85	8.50	16	2.29	47	11.75	8	4.00	27	4.50
水痘	19	0.35	2	0.14	7	0.64	2	0.20	3	0.43	5	1.25	-	-	-	-
手足口病	247	4.57	44	3.14	62	5.64	32	3.20	48	6.86	6	1.50	12	6.00	43	7.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	35	0.65	15	1.07	12	1.09	1	0.10	3	0.43	-	-	1	0.50	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	49	0.91	9	0.64	8	0.73	8	0.80	8	1.14	-	-	9	4.50	7	1.17
流行性耳下腺炎	16	0.30	5	0.36	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4	0.80	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 26週(発生レベル設定疾患)

(2017/06/26～2017/07/02)

2017年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	-	-	4	0.25	3	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	18	0.33	4	0.29	3	0.27	4	0.40	5	0.71	2	0.50	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	1.63	32	2.29	25	2.27	14	1.40	4	0.57	4	1.00	1	0.50	8	1.33
感染性胃腸炎	414	7.67	148	10.57	83	7.55	85	8.50	16	2.29	47	11.75	8	4.00	27	4.50
水痘	19	0.35	2	0.14	7	0.64	2	0.20	3	0.43	5	1.25	-	-	-	-
手足口病	247	4.57	44	3.14	62	5.64	32	3.20	48	6.86	6	1.50	12	6.00	43	7.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	49	0.91	9	0.64	8	0.73	8	0.80	8	1.14	-	-	9	4.50	7	1.17
流行性耳下腺炎	16	0.30	5	0.36	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第26週 2017/06/26～2017/07/02)

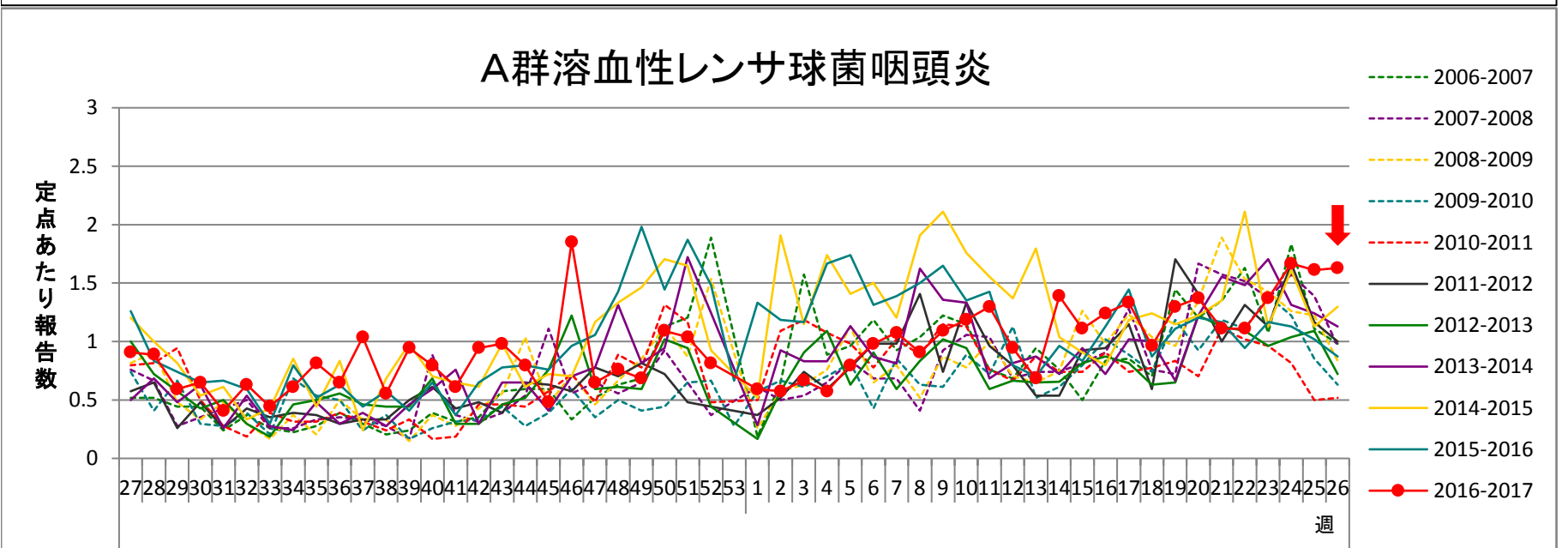
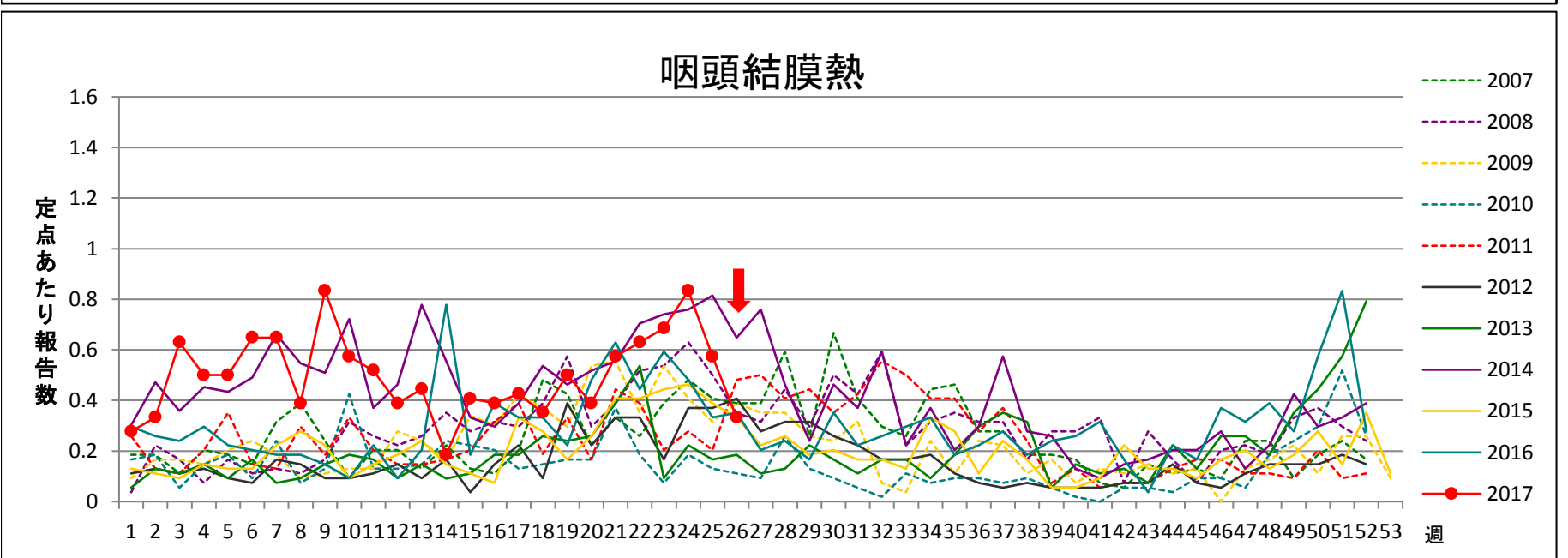
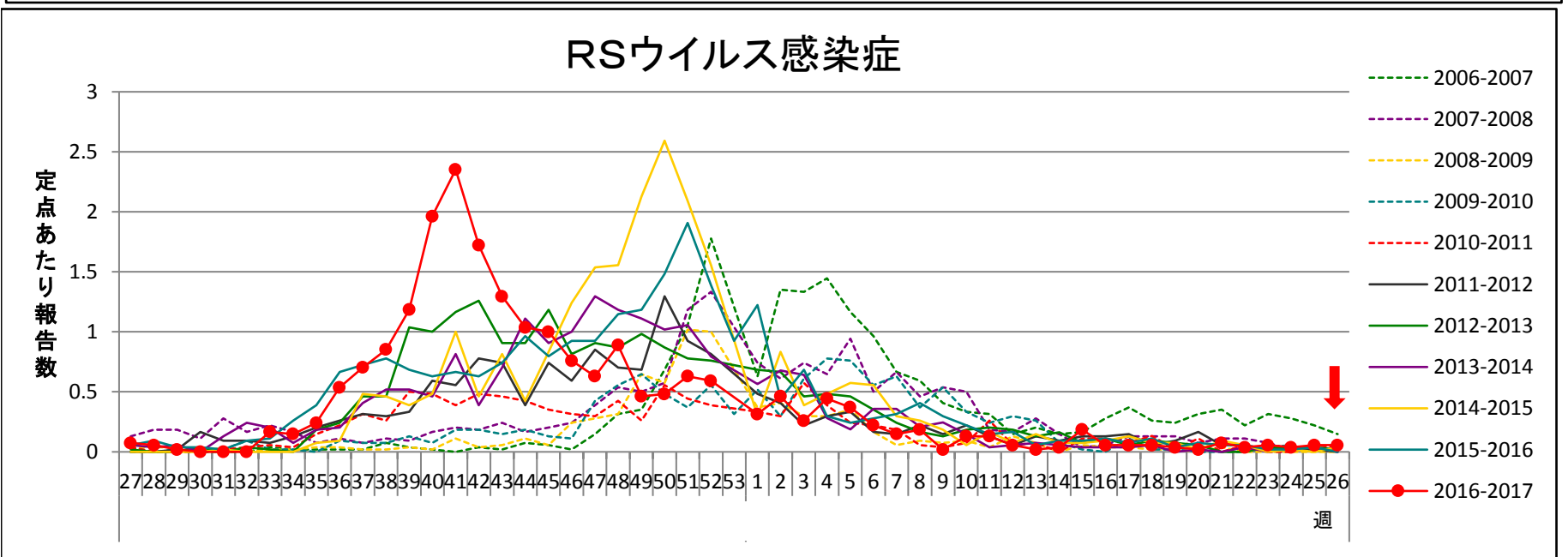
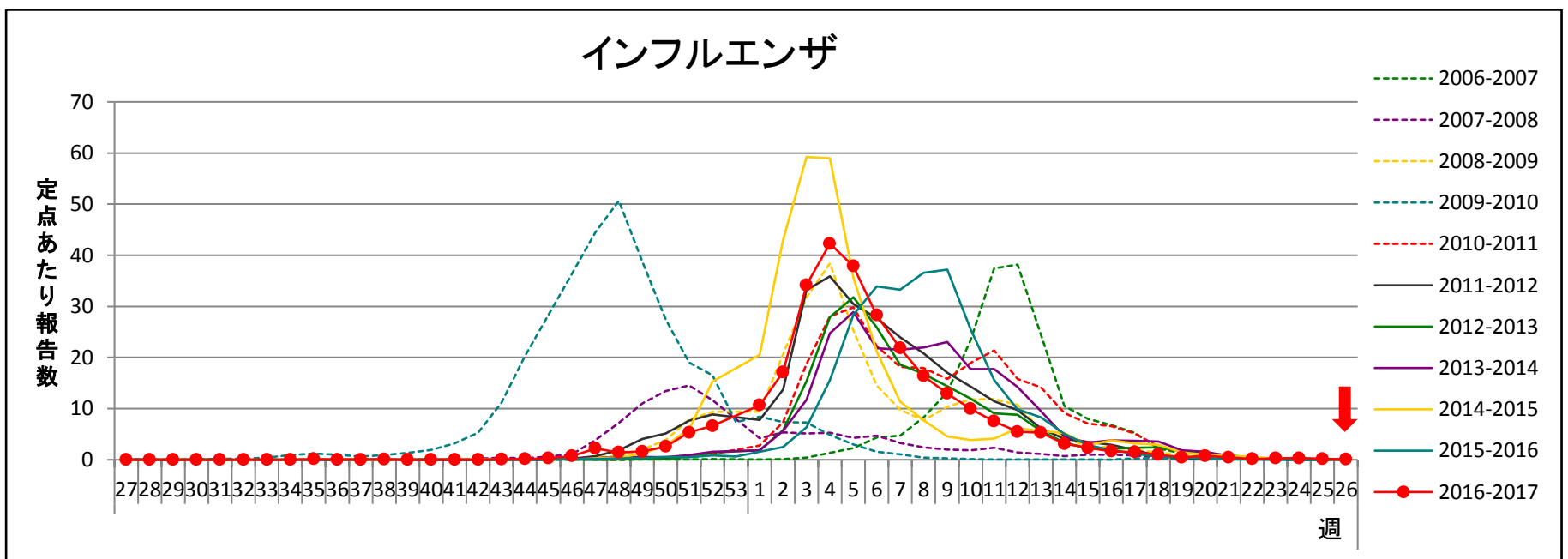
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	7	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2	1	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	3	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	18	-	2	4	7	2	-	1	2	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	-	-	2	10	13	8	13	10	10	6	2	8	-	6
感染性胃腸炎	414	9	29	75	45	37	40	20	23	16	12	11	34	8	55
水痘	19	-	2	1	1	1	2	2	-	2	-	2	2	-	4
手足口病	247	3	39	94	52	22	13	6	6	2	4	3	-	2	1
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	35	-	14	18	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	49	-	4	17	16	3	4	2	1	1	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	16	-	-	2	2	-	1	3	3	-	2	-	3	-	-

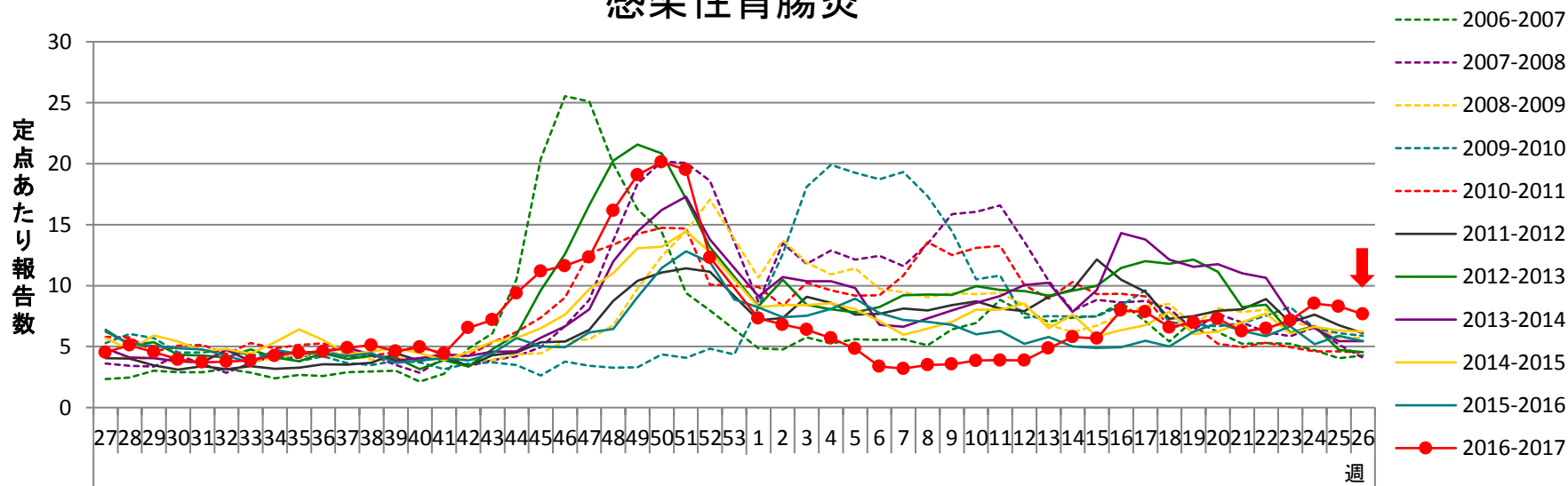
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

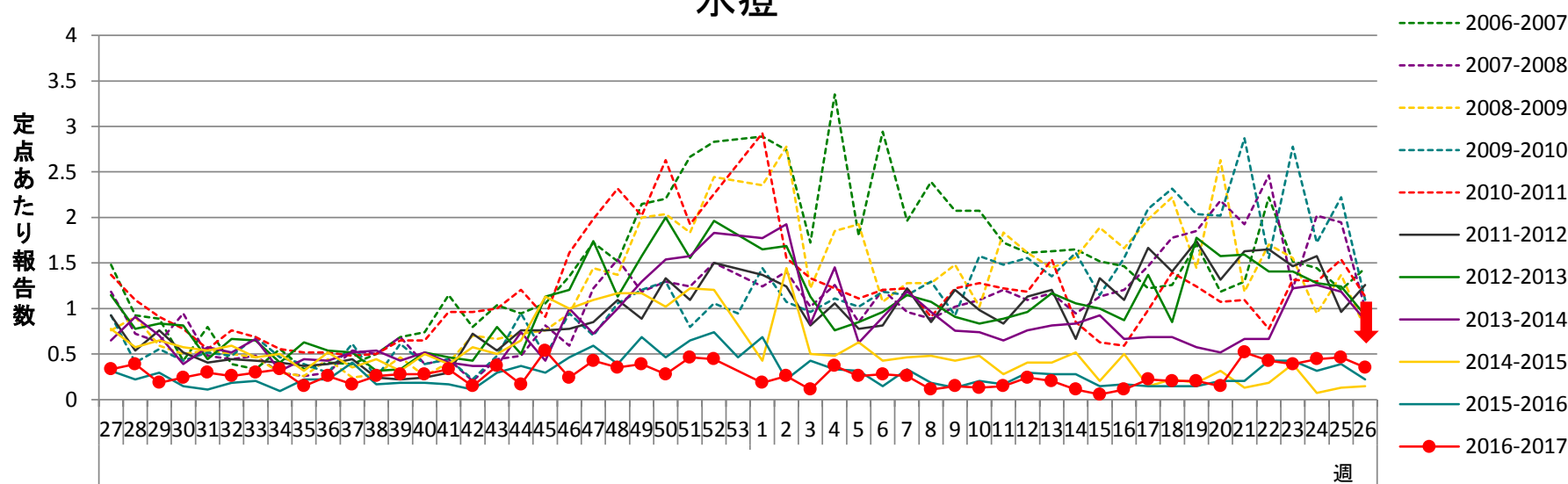
(- : 0)



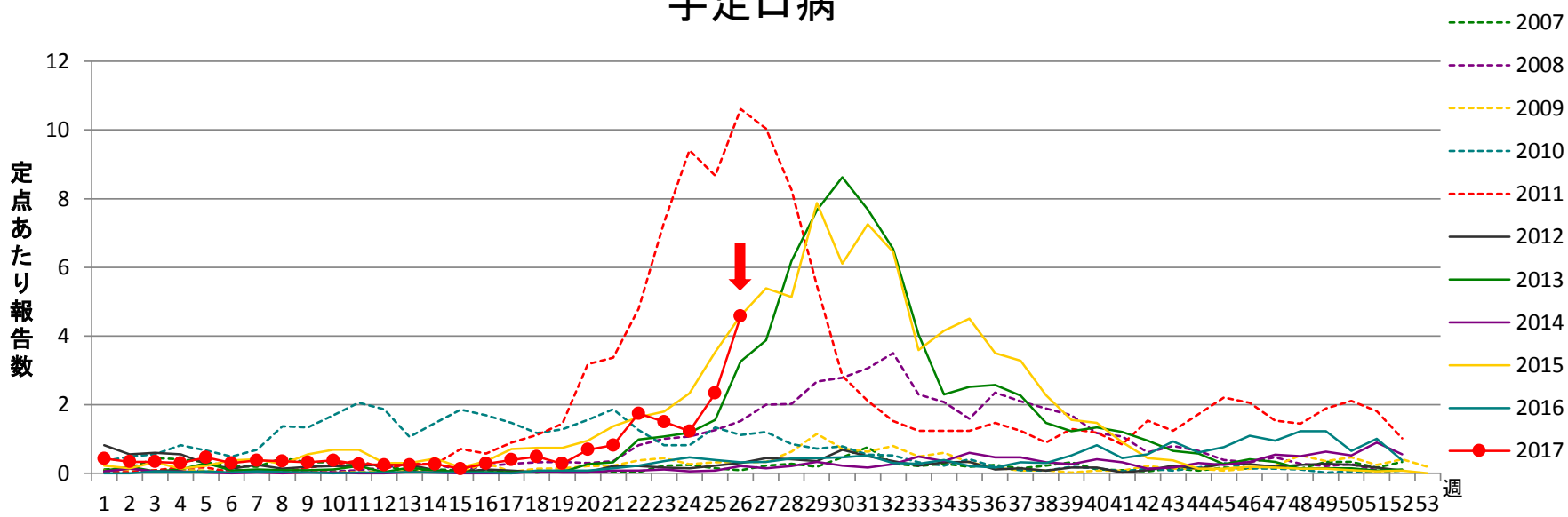
感染性胃腸炎



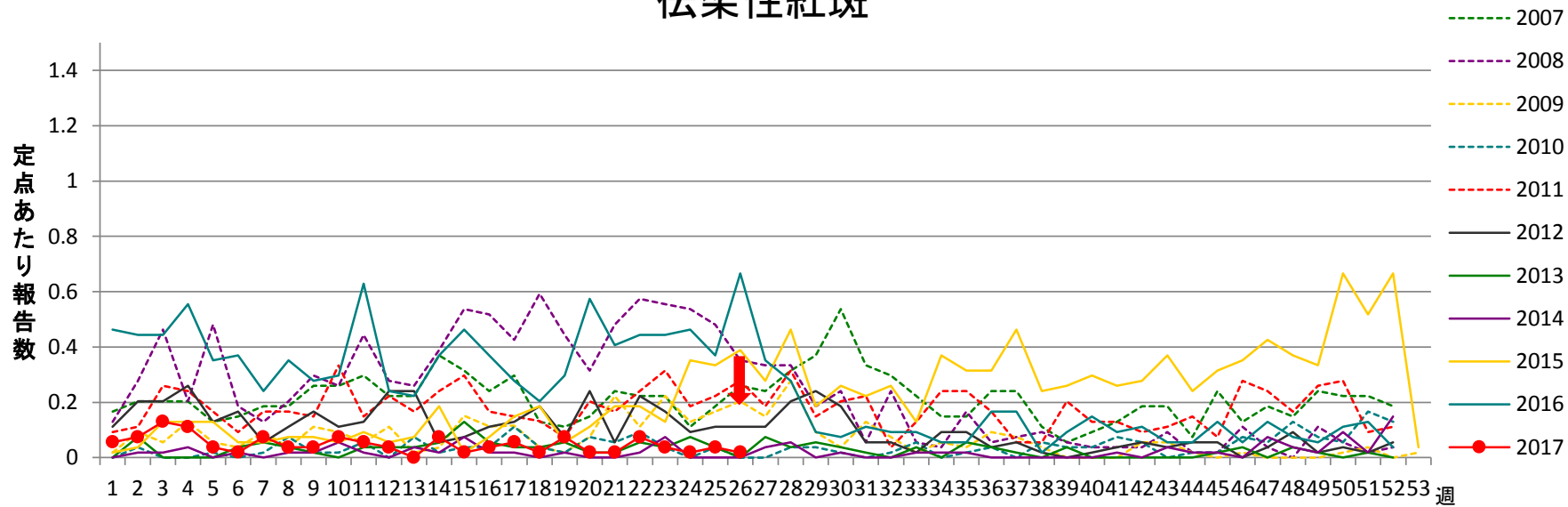
水痘



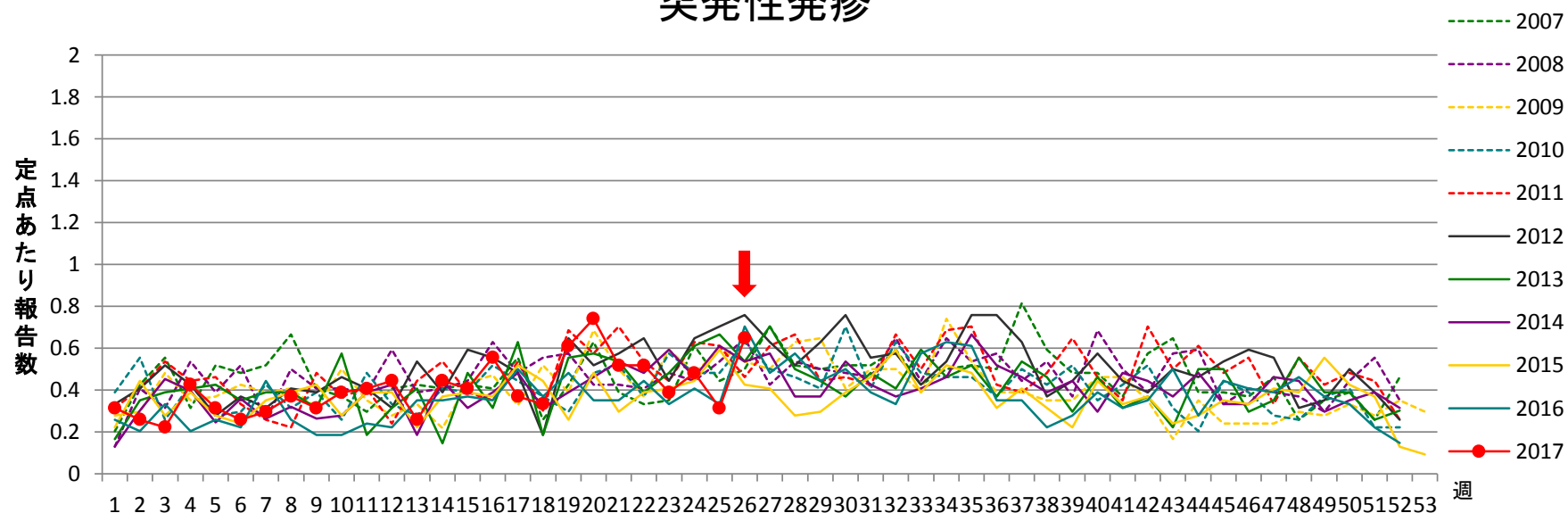
手足口病



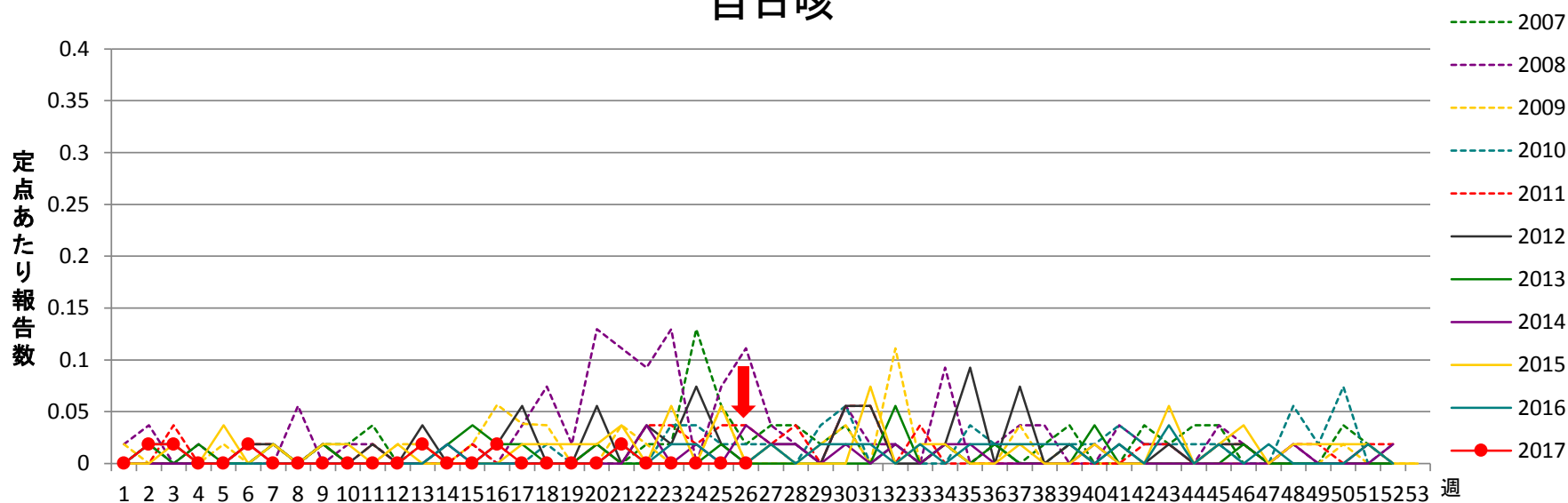
伝染性紅斑



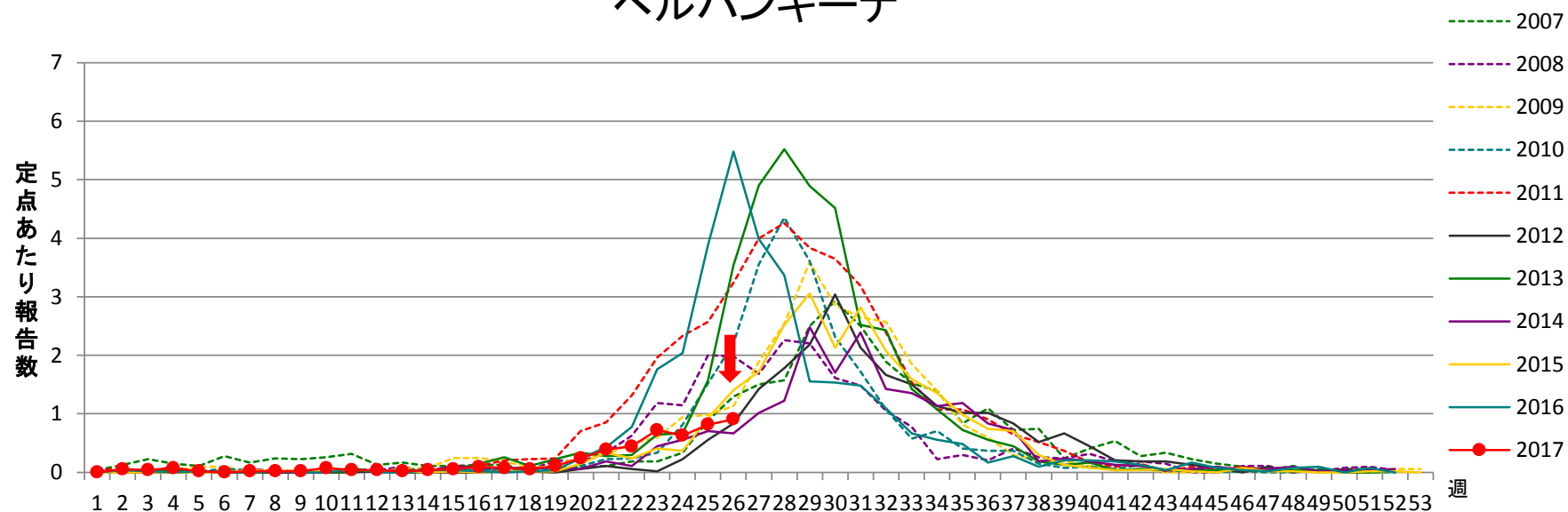
突発性発疹



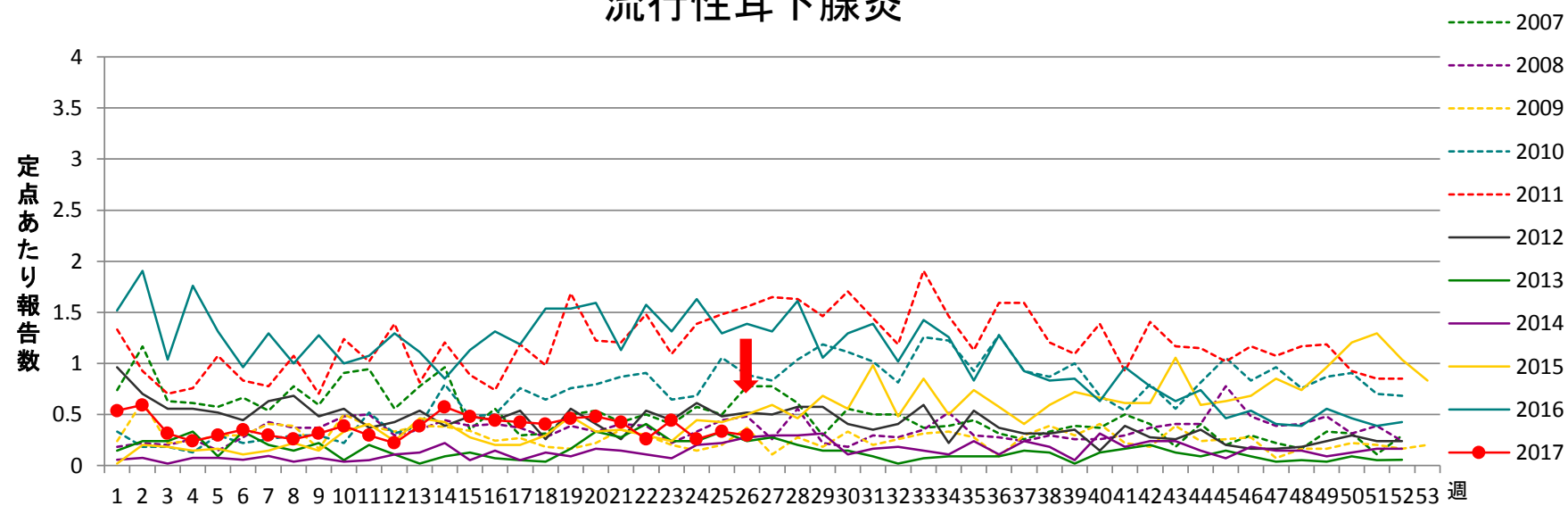
百日咳



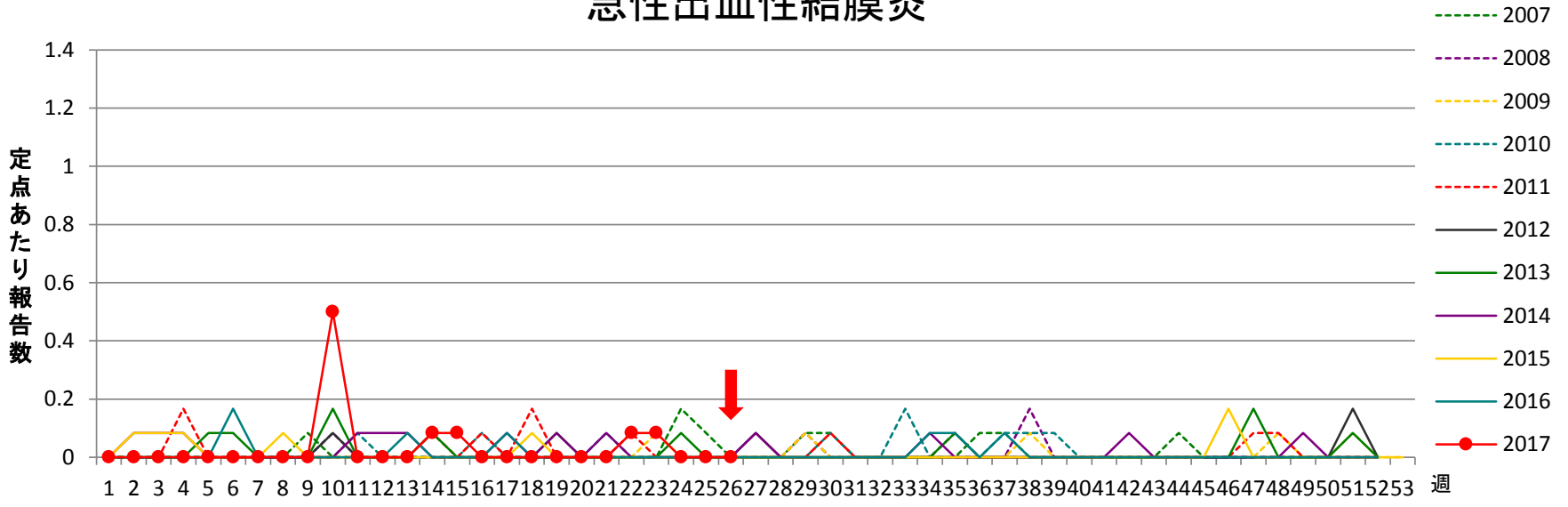
ヘルパンギーナ



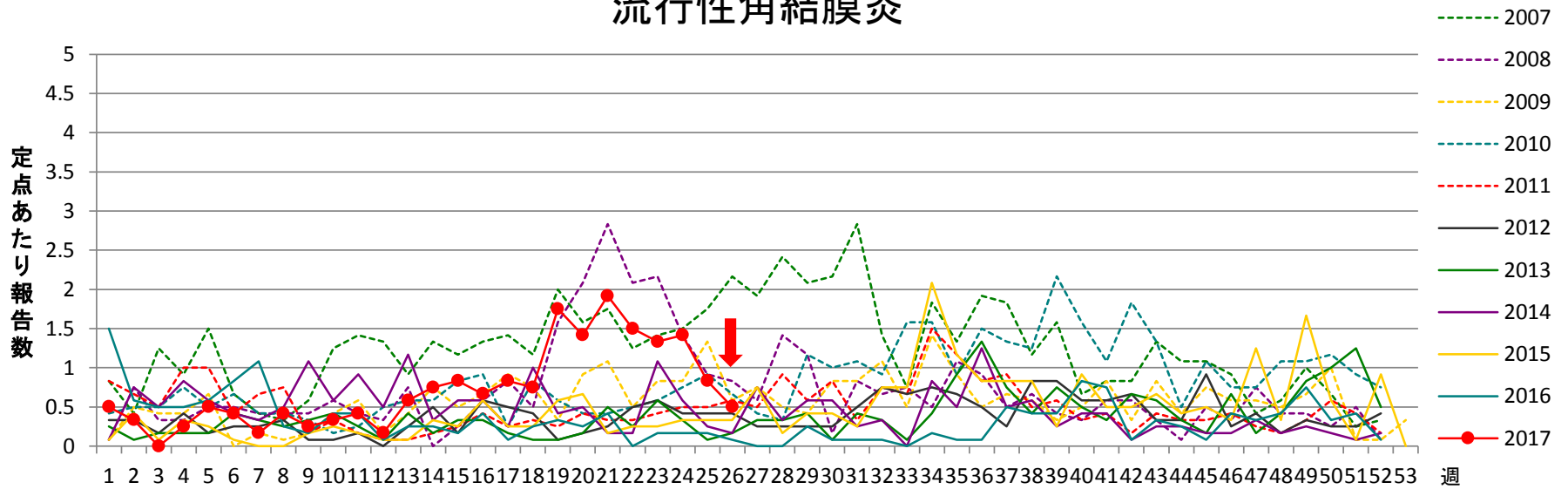
流行性耳下腺炎



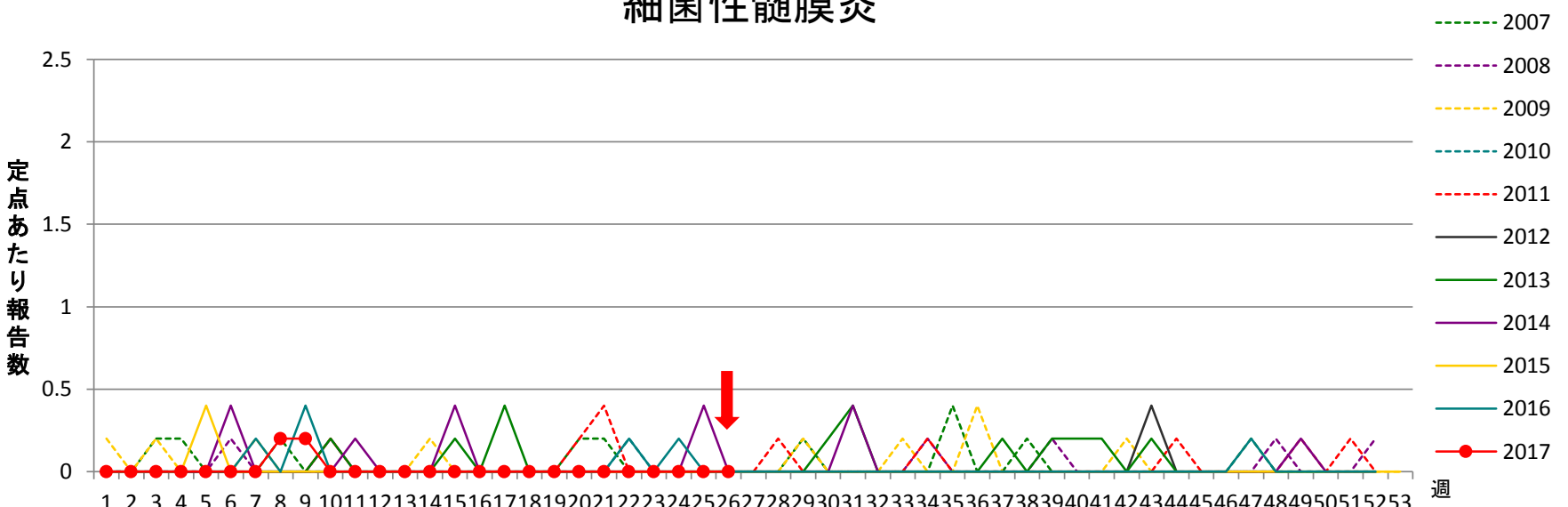
急性出血性結膜炎



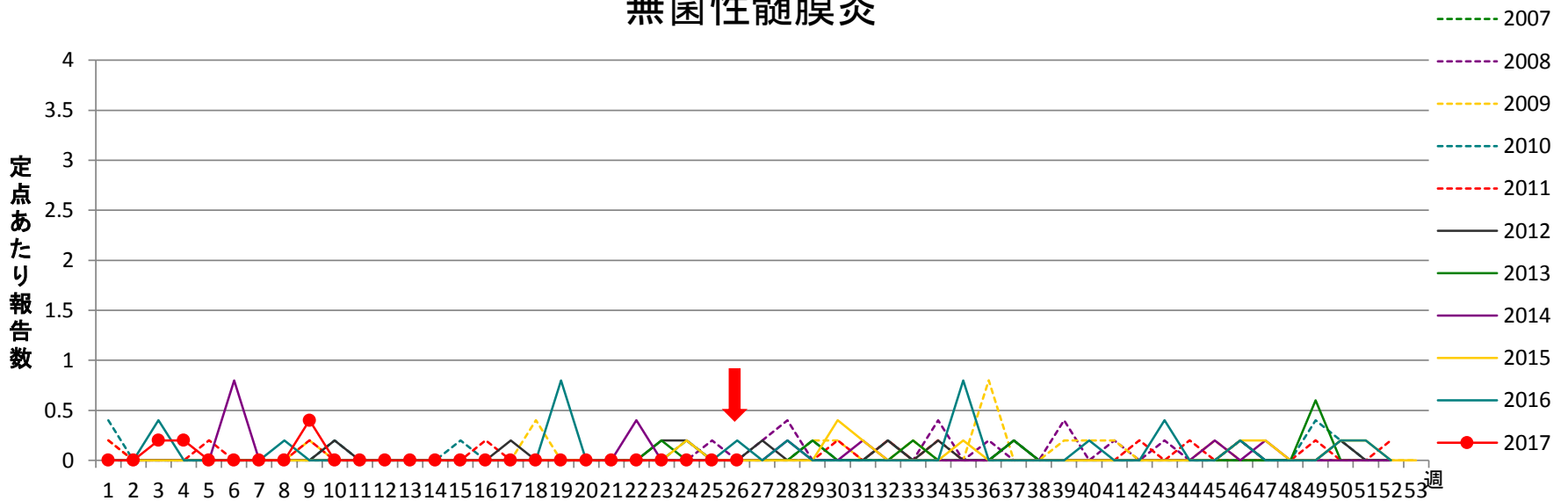
流行性角結膜炎



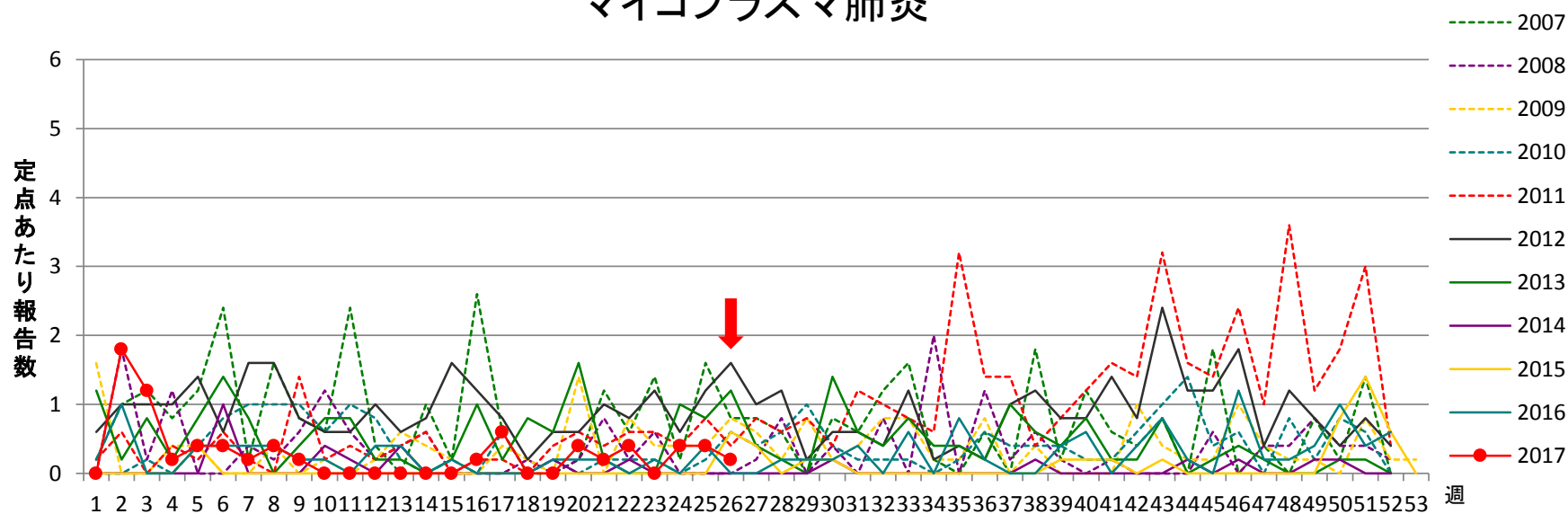
細菌性髄膜炎



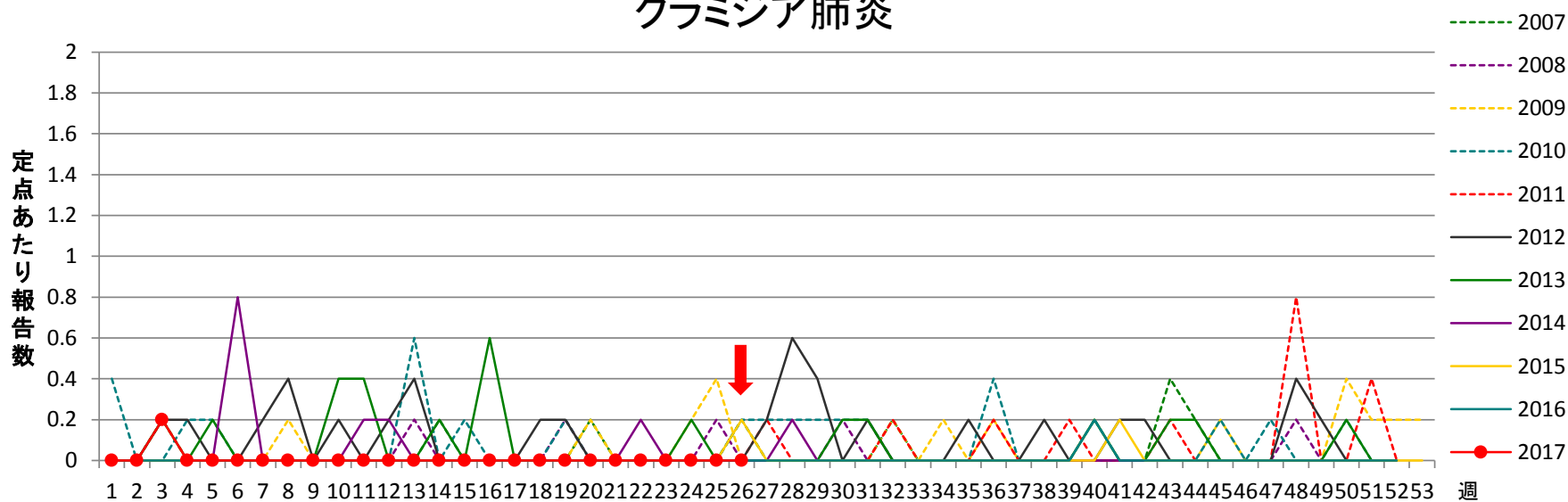
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

